

昭和二十年七月

昭和十九年度米財政金融調査協議會報告（要旨及結論）

大藏省  
外資局



目次

主要交戦國ノ財政政策及ニ租稅政策	委員	沙見三郎	一頁	(要旨)	(結論)
財政金融ヨリ見タル獨逸ノ戦力		中山伊知郎	五		三二
米國ノ戰費調達ト通貨政策		高橋泰藏	一〇		三三
金ヲ要セザル經濟ノ構想		荒木光太郎	一三		三四
國濟決濟制トシテノ爲替清算制		油本豐吉	一八		三五
歐米ニ於ケル戦後ノ決濟制		中谷實	二一		三五
國際通貨基金案ノ檢討		荒木光太郎	二六		三六
國際通貨基金制度ノ要旨及批判		青山秀夫	二八		三六
戦後國際通貨案ノ批判		鬼頭仁三郎	二八		三七
航空機工業ノ復員ト國際航空輸送戰		今野源八郎	二九		三七

第一部 要旨

主要交戦國ノ財政政策殊ニ租稅政策

委員 汐見三郎

一、前大戰下ノ財政特ニ租稅政策

前大戰ハ總力戰の性格ヲ持タズ其ノ末期ヨリ漸ク準戰體制ガ確立サレルニ至リ財政モ之ト同一歩調ヲ取ツタ。從テ各國ノ財政ハ政治組織ガ鞏固デナカツタ爲、國ト地方ニ二分サレ(米國、獨逸)或ハ自由主義ニ禍サレ(佛蘭西)國家ノ總力ヲ財政面ニ結集スルコトガ出來ナカツタ。即チ

(一) 獨逸鐵道ハ邦ノ經營ニ係リ直接稅ハ邦(人稅)又ハ地方團體(物稅)ニ屬シ、國ノ財源ハ邦ヨリノ貢納命ト間接稅ニ止ツタ。

(二) 米國デハ一九一三年ノ憲法改正ニ依リ始メテ所得稅ガ國稅トシテ採用サレタガ未ダ地方分權的色彩ガ濃厚デアツタ。

(三) 佛蘭西デハ專ラ間接稅又ハ外形標準ニ依ル直接稅ヲ財源トシ大戰直前ニナリ漸ク新所得稅法ノ成立ヲ見タニ適ギヌ。

(四) 英國ハ所得稅ノ國ト言ハレ未ダ流通稅ヲ持タナカツタ。

三、今次大戰ニ於ケル財政政策

今日ノ財政ハ總力戰の性格ヲ極度ニ要求サレ租稅ニテ新樽楳カ展  
開サレルト共ニ國民經濟トノ聯繫ノ下ニ財政計畫ガ樹立サレルニ  
至ツタ。

(一) 國內財源トシテハ前大戰ノ公債中心主義ニ對シ今次大戰デハ租  
稅ガ一層重視サレテ居ル。租稅ノ歲入中ニ占メル割合ハ獨逸ニ  
割五分(一九四三年)、英國五割二分(一九四四年)、米國四  
割七分(一九四四年)デアリ、租稅ノ國民所得ニ對スル割合モ  
増加シテ居ル。

(二) 外國資金ハ外債、占領地分擔金及武器貸與トナルガ、現在外債  
ハ問題デナク樞軸側ノ占領地分擔金ト反樞軸側ノ武器貸與ガ重  
要ナ役割ヲ果シテ居ル。

三、今次大戰ニ於ケル租稅政策

(一) 租稅體系ノ整備

(イ) 租稅ヲ地方稅カラ國稅ニ移行集中シタ。

(ロ) 總テノ稅種ヲ採リ入レ、收得稅、消費稅及流通稅ノ基本立トシタ。

(ハ) 特ニ收得稅(直接稅)ヲ國稅ノ中心トシタ。

(ニ) 新稅ノ創設及増稅ノ實施

(イ) 新稅

獨逸ノ輸入附加所得稅、麥酒、佛羅酒及煙草戰時附加稅、州市町村ノ戰時納付金ヲ始メ、米國ノ選擇所得稅、戰勝稅及超過利得稅、英國ノ超過利得稅、仕入稅等ヲ創設サレタ。

(ロ) 増稅

所得稅ニ付キ戰前ノ二割乃至十割ノ稅率引ヒテ實施シ免稅點各種控除ノ引下メ撤廢ヲ行ツタ。英國ニ於テハ一部所得稅増徴分ノ戰後拂戻制度ヲ案出シタ。

(三) 經濟政策トノ聯繫

今次大戰下ノ租稅政策ハ生産擴充、國債消化、インフレ對策等ト密接ニ關聯シテ樹立サレ、新興所得層ヲ中心トスル大衆課稅ガ實施サレ時局産業及國債預貯金ニ對スル課稅ノ輕減ガ行ハレ

々・又國民所得ヲ養ヒ自然増收ヲ企圖シタ。

四 租稅政策ノ特徴

巨額ノ租稅收入ヲ期待スル爲公正ナル租稅負擔、精緻ナル課稅組織ヨリモ租稅收入ノ急速ナル増加ニ努ム。

財政金融ヨリ見たる獨逸ノ戦力

委員 中山伊知郎

獨逸ノ現戦力ヲ判定スルニハ綜合的基準ニ依ラネバナラヌガ、此ノ  
種ノ基準ハ尙ホ未ダ確立サレテキナイ。仍テ前大戰ト今次大戰トノ  
間ニ幾多ノ根本的ナ相違ヲ認メ乍ラモ、前大戰ノ財政經濟狀態ヲ基  
準トシテ(一)戦費ト國民所得、(二)戦費支出ノ形式及(三)インフレ！シ  
ン問題ノ三ノ觀點ヨリ判断シヤウ。

一、戦費ト國民所得

國民所得ハ戦費ノ重要ナル源泉デアルカラ其ノ比率ニ依ツテ戦費  
ノ限界ヲ推定スルコトガ出來ル。最モ簡單ナ方法ハ兩者ノ總額ヲ  
比較スルコトデアル。例ヘバ一九一七年ニ於ケル獨逸ノ戦費ハ三  
七五億馬克デ國民所得ノ六八%ニ當リ極限ト見ラレタ。然ラバ現  
大戰ニ於ケル比率如何。獨逸ノ戦費ハ一九四一年以降國民所得ノ  
七〇%ヲ超エ、特ニ一九四二年ニハ七七%ニ達シテ居ル。

(一)實質的戦費比率

併シ戦費ノ財源ニハ國民所得以外ニ國民財産ヘノ喰込等モアル

カラ之ヲ考慮シテ國民所得其ノモノヘノ實質的負擔ヲ求メネバ  
ナラヌ。此ノ實質的戰費比率ハ一九四一年及四二年ニ於テ四三  
乃至四九%及五一%トナル。前大戰中經濟的ニ最悪デアツタ一  
九一七年ノ三四%ニ比スレバ獨逸ノ經濟力ハ著シク緊迫ノ度ヲ  
加ヘタト見ラレル。

(二) 獨逸經濟力ノ緊迫度

總力戰ハ戰費源泉中ノ國民所得ノ比率ヲ增大スル。故ニ今次大  
戰ニ於テ其ノ實質的戰費比率ノ増大スルニシテ獨逸ノ經  
濟力ガ緊迫セリト斷ズルハ妥當デナイ。

(イ) 獨逸ノ實質的戰費比率ハ健全増大傾向ヲ示シテキルカラ其  
ノ經濟狀態乃至體制ハ寧ロ強靱デアルト見ルコトガ出來ル。

(ロ) 實質的戰費比率四九%及五一%ハ極限ニ近イモノデアラウガ  
毎年二〇〇億馬克ニ上ル占領地分擔金ヲ國民所得ト同様ノ性  
質ヲ有スルモノト見レバ戰費比率ハ著シク緩和サレル。

三 戰費支出ノ形式

(一) 戰費調達ノ主要ナ方法ハ公債ト租稅デアルガ、兩者ヲ五〇對五



○トシテ維持スルコトハ今次大戦ニ關スル限り各交戰國間ニ共通スル方針デアツタ。然ルニ一九四一年以降ノ獨逸デハ公債ガ租稅ヲ超エ逐次其ノ差ヲ増大シタ。之ハ右方針ノ維持困難ヲ示スモノデアリ、獨逸經濟力ノ若干ノ弱點ヲ露ハスモノトモ言ヘヤウ。

(二)短期債ト長期債トノ比率ハ其ノ意義更ニ重要デアル。獨逸ハ今次大戦ニ於テ先ヅ短期債ヲ引受サセ次ニ之ヲ預貯金トシテ長期債ニ轉換スル方針ヲ採ツタ。併シ一九四二年ニハ其ノ轉換比率ガ變化シタ。從來長期債ハ現在高ニ於テ常ニ優位ヲ占メテキタガ同年末ニハ全體ノ四八%トナツタ。之ハ少クトモ一部一九一六年ニ於ケル公債事情ノ變化ヲ想記セシメル。尤モ現在ノ如キ組織的ナ金融統制下ニ在ツテハ必ズシモ前同同様ノ惡影響ヲ招來スルトハ言ヘナイ。

### 三 インフレーション問題

獨逸ノ經濟統制ハ通貨ノ兌換ニ基クインフレーションノ發現ヲ抑制スル上ニ大キナ成功ヲ收メテ居ル。併シ今後此ノ効果ヲ維持ス

- ルニハ一層ノ努力が必要デアル。
- (一) 一九四三年ノ獨逸通貨ハ開戰當時ノ四倍ニ達シタガ、物價ハ強力且巧妙ナル統制ニ依テ開戰以來一割強ノ騰貴ニ止テキル。之ハ開戰以來一九四一年迄ノ公債發行高ト國民貯蓄額トノ平行的增加及一九四〇年乃至四一年ニ於ケル預金通貨ノ流通速度ノ急減少ガ示ス如ク通貨増發ニ基ク餘剩購買力ノ吸收ガ順調ナリシニ因ル。
- (二) 然ルニ一九四二年ニハ預金通貨ノ流通速度ニ變化ナキニ拘ラズ預金ノ増勢ハ遙カニ銀行券ノ増勢ニ及バズ餘剩通貨ノ吸收過程ニモ限界ノアルコトヲ示シタ。
- (三) 故ニ統制下ニ於テモインフレーションハ潜在スル、剩へ外地ノ物價高ニ影響サレ其ノ顯現化サヘモ見受ケラレル。獨逸ノ戰時經濟ガ廣域經濟ニ依存スル限り外地ノインフレーション對策モ亦急務ト言ハネバナラヌ。

四結 論

以上ノ考察ヨリ次ノ如ク判定スルコトガ出來ル。

- (一) 獨逸ノ戰時經濟力ハ略々極限ヲ示シテキル。
- (二) 併シ戰爭努力ガ繼續スル限り獨逸ハ經濟的ニ崩壊シナイ。
- (三) 其ノ努力ノ焦點ハ物資的ニハ勿論財政的ニモ金融的ニモ主トシテ對外經濟關係ニ在ル。

米國ノ戰費調達ト通貨政策

委員 高橋 泰藏

一、米國ノ戰時通貨政策及インフレ問題ヲ検討スルニハ單ニ財政ノ膨脹、通貨ノ増大、物價ノ騰貴等ノ表面的現象ヲ探ルノミデハ十分デナク其ノ根柢ニ在ル眞ノ戰費調達機構ヲ明カニスルコトガ必要デアル。此ノ意味カラ加盟銀行ガ聯邦準備銀行ニ有スル過剩準備ガ注目ニ値スル。

一九四一年六月末ニ加盟銀行其ノ他ノ金融機關ハ總額ノ五五%ニ當ル國債ヲ所有シ戰費調達上重要ナ役割ヲ演ジテ居ル。此ノ銀行ニ依ル國債消化ハ必ズシモ國民貯蓄ノ募付ニ依ルモノデハナイ。一九四〇年カラ四一年ニカケテ五十億乃至七十億ニ上ツタ過剩準備ヲ基礎トスル信用ノ創出ニ依ツテ行ハレ、一九四一年以降ニ於ケル過剩準備ノ急激ナ減少ハ之ヲ反映シテ居ル。

三、戰時財政通貨政策ハ直接國民生活ヲ壓迫スルモノ即チ増稅及貯蓄ニ依ルモノト間接ニ國民生活ヲ壓迫スルモノ即チインフレ及物價騰貴ニ依ルモノトニ大別出來ルガ、米國ハ民主主義、自由經濟ヲ

建前トスルカラ直接國民生活ヲ壓迫スル方法ヲ回避シ主トシテ後  
者ノインフレ的戰費調達方法ヲ採ツテ居ル。而シテ之ヲ可能ナラ  
シメタモノガ過剩準備ニ依ル戰費調達デアル。

四、斯ノ如キ過剩準備ヲ基礎トシテ創出セラレタ資金ニ依ル國債ノ消  
化ハ一應我ガ日本銀行ノ引受發行ニ類似シ之ヲ一般多數ノ銀行ニ  
依テ行ツテ居ルトモ見ラレルガ、次ノ點ニ根本的ナ相違ガアル。

(一) 引受發行ノ場合ニハ其ノ反面ニ消化目標ノ設定ト其ノ消化促進  
機構ガアリ、結局大部分ガ國民貯蓄ニ依ツテ專付ケラレルガ、過  
剩準備ニ依ル信用創出ノ場合ニハ此ノ様ナ專付ガ存在シナイ。  
□ 日本銀行ノ引受能力ニハ機構上限界ガナイガ、過剩準備ニ依ル  
信用創出ニハ限界ガアル。

過剩準備ヲ基礎トスル信用創出ニ依ツテ行ハレル戰費調達方法ハ  
此ノ様ニソレ自身ニ限界ガアル上ニ專付機構モナイカラ急速ニ限  
界ニ達スルコトハ自明デアル。

五、事實一九四三年ヨリ四四年ニカケテ過剩準備ハ急激ニ減少シ上述  
ノ如キ戰費調達方法ガ行結リツツアルコトヲ示シテ居ル。而モ金

流入等ニ依リ過剩準備ノ増加又ハ維持ヲ圖ルコトハ今日到底考  
ヘラレナイカラ、今後ノ戦費調達方法ハ聯邦準備銀行ノ直接引受  
ム又ハ一般公募ニ依ラザルヲ得ナイデアラウ。

金子要セザル經濟ノ構想

委員 荒木光太郎

一、金子要セザル經濟ノ構想ハ獨逸フンク經濟相ニ依ツテ唱ヘラレ

國際通貨基金案トハ對蹠的ナキノデアル。

(一)之ハ從來ノ金否定論者ノ如ク自由資本主義制度ヲ前提トスル

ノデハナク廣域經濟トイフ新シイ世界經濟秩序ヲ前提トスル。

(二)從テ金子要セザル經濟即チ貨幣制度カラ金子排除シ得ルカ否

カハ次ノ三點カラ檢討スル必要ガアル。

(イ)國內貨幣ト金

(ロ)國內貨幣ト金

(ハ)國外支拂ト金

二、國內貨幣ト金

國內貨幣ハ管理通貨デ十分デアリ金ガ不必要ナコトハ從來ノ事

實カラ明カデアル。

三、國內貨幣ト金

國內貨幣ニ金子必要トスルヤ否ヤハ(一)金ニ代ル支拂方法アリヤ

(二) 貨幣比率ハ如何ニ決定サレルヤニ依リ決定サレル。

(一) 金ニ代ル支拂方法

(四) 之ニハ爲替清算制度ガアル。  
廣域經濟圈ノ本質上交易ハ綜合的且計畫的ニ行ハレルカ多  
多角的爲替清算制度ヲ採用スレバ支拂差額ヲ生ズルトスル  
千極ノテ小額デアル。

(三) 之ガ決濟ハクレディットノ設定又ハ中樞國ノ貨幣ヲ以テス  
ルコトガ出來ル。

(1) 之ハ廣域經濟圈ガ經濟協同體デモアルカラ當然デアル。  
(2) 既ニ國內貨幣ニ金ヲ必要トシナイカラ此ノ決濟方法ハ容  
易ニ承認サレル。

(二) 貨幣比率ノ決定方法

(イ) 此ノ方針ハ新秩序建設ノ大方針ニ則ツテ樹テラレルベキデ  
アリ、大東亞共榮圈ニ在テハ物資ノ圓滑ナル交流ニ置カレ  
ル。

(ロ) 之ニハ「望マシキ」比率ト「アルベキ」比率ノ決定方法ノ



檢討ヲ要スル。

(1) 「望マシキ」比率決定ノ方法

(a) 我國ノ重要必須物資中甲地域ノ提供シ得ルモノニ付テハ其ノ種類ト量ヲ決定シ之ニ甲地域ハ同地貨幣ヲ以テ提供可能ノ價格ヲ定メ我國ハ圓ヲ以テ購入價格ノ希望的評價ヲナス。茲ニ甲地通貨ト圓通貨トノ間ニ一ツノ價值比率ガ成立スル。

(b) 之ト共ニ甲地域ノ重要必須物資ニシテ我國ノ提供シ得ルモノノ種類ト量ヲ決定シ之ニ付テ右ト逆ノ價格評價ヲナス。茲ニモ甲地通貨ト我國圓通貨トノ間ニ價值比率ガ成立スル。

(a) 以上二ツノ價值比率ハ双方ガ經濟協同體ノ本質ニ則リ合理的ニ評價ヲ行フ限り其ノ間大ナル差ノ生ズル管ナク些少ノ差ヲ生ズルモ讓合ヒニ依リ一ノ協定比率ニ到達ス。

(a) 同様ニシテ乙地域、内地域等トノ間ニモ協定比率ガ出

來、又甲乙丙等ノ諸地域相互間ノ價值比率ハ我國トノ比率ヨリ裁定シテ決定出來ル。

(2) 「アルベキ」比率決定ノ方法

(a) 「望マシキ」比率ハ謂ハバ綜合的ナモノデ之ヲ總テノ物資ノ取引ニ適用スルトキニハ物資ノ圓滑ナ交流上多少ノ修正ヲ要スル場合ガアル。

(b) 此ノ不均衡ハ商品ニ依リ關稅、補償制度等ノ第二次的調整ニ依ツテ修正サルベキデアアル。

(2) 此等ノ比率ハ一定不變ノモノデナク物資ノ配分關係、貨幣事情等ノ變化ニ依ツテ改訂サルベキデアアル。

#### 四 國外支拂ト金

(一) 廣域經濟圈ノ性質上其ノ圈外トノ交易ハ商品ノ種類ト數量ニ付キ計畫的ニ行ハレ圈ノ必要ニ基ク自律的ナ手段ニ過ギヌモノトナル。

(二) 從テ圈外トノ支拂關係ハ最少限度ニ止リ圈ノ計畫的ヲ意思ノ下ニ自由ニ伸縮サレ得ル。

(三) 故ニ右支拂關係ハ大ナル重要性ナク支拂手段ニ付キ他ヨリ強  
制サレルガ如キ性質ヲ持タズ、從テ國外支拂キ金子要セザル  
ニ至ル。

云以上ノ如ク金子要セザル經濟ハ

(一) 廣域經濟トシテ理論的ニ可能デアリ此ノ意味ニ於テフシク經  
濟相ノ提案ハ國際通貨基金案ニ對シ重大ナ意義ヲ有スル。

(二) 殊ニ之ハ我國ニトツテ重大ナル實際的意義ヲ有スル。蓋シ  
米英案ノ如キ金ト關係ヲ有スル貨幣制度ニ復歸スルコトハ米  
國ノ金ニ依ル支配ニ服スルコトトナルカラデアル。

國際決濟制トシテノ爲替清算制

委員 油本 豊吉

一、爲替清算制ノ將來

世界經濟ガ自由經濟カラ計畫經濟ヘノ傾向ヲ示スニ伴ヒ國際收支關係ニ於テモ自由爲替制カラ爲替清算制ヘノ轉換ガ行ハレテ來タガ、此ノ傾向ハ今後多角の清算制ニ發展スルデアラウ。

二、爲替清算制ト金本位

爲替清算制ハ金ノ自動的作用タル爲替裁定ニ依ル金ノ現送ヲ不用ナラシメルガ金ハ(イ)終局清算尻ノ決濟用(ロ)對外貸付用(ハ)金融機關ノ信用維持上有用デアリ(ニ)依然トシテ國際商品タル地位ヲ失ハナイデアラウ。從ツテ金本位制ヲ維持スルコトハ便利デアリ又之ハ爲替清算制ト矛盾スルモノデナイ。

爲替清算制ハ單ナル金本位制ニ比較スルト手續ノ煩瑣ナル缺點ハアルガ(イ)國際收支狀況ヲ詳細明瞭ニ反映シ(ロ)國際收支ノ不均衡調整ノ爲ニ簡單ニ清算比率ヲ調整シ得ル等ノ便宜ガアル。

三、清算比率

通貨換算率決定ノ基準トシテハ平價、公定比率、協定比率、支拂地ノ取引所相場又ハ第三國ノ取引所相場等ガアルガ重要ナノハ適用サレル清算比率ガ可及的ニ實際ノ爲替比率ニ合致スルコトデア  
ル。

四 爲替清算制ノ回避

(一) 回避ノ手段

(イ) 爲替管理ヲ實施セズ且清算協定ヲ締結シテ居ナイ第三國ノ業者ヲ通ジテ商品ヲ販賣スル。

(ロ) 商品ヲ清算相手國內ノ支店ニ向ケ發送シ清算制ノ範圍外ニテ賣却スル。

(ハ) 比較的長期ノ支拂期限ヲ協定シ情勢好轉ノ際ノ爲替ニ依ル支拂ヲ受ク。

(ニ) 輸出業者ト輸入業者ガ通謀シテ過小價格ヲ申告シ不足分ハ輸出業者ノ預金トシテ之ヲ利用セシメル。

(二) 回避ニ對スル對策

領事館又ハ商業會議所ノ證明書發行等ノ對策ガアルガ(イ)清算當

局ガ誠意ト熟意ヲ以テ之ニ當リ(四)清算比率ノ合理化ヲ圖ルト共  
ニ(ハ)爲替清算制ヲ全般的ニ採用スル必要ガアル。

六 清算尻ノ處理

(一) 清算尻處理ノ方法トシテハ清算債務國ノ收入ヲ増加スルコトガ  
最モ穩當デアアルガ其ノ爲ニハ商品輸出ニ依存スルヨリハ寧ロ貿  
易外收入ノ増加ニ依ルベキデアル。

(二) 次ニ債務國ニ對シ長期貸付又ハ投資ヲ行フ方法ガアルケレドモ  
國際信用ガ乏シイ現狀デハ後者ガ有效デアル。

(三) 更ニ債務國本位ノ平價切下等ノ措置モ考ヘラレルガ之ハ一時的  
ノ彌縫策ニ過ギズ其ノ後ニ惡影響ヲ及ス。

(四) 最後ニ多角清算ニ依テ相互ニ第三國ニ於ケル債權債務ノ相互振  
替ヲナス方法ガアリ近時次第ニ採用セラレツツアル。

六 爲替清算制ノ役割

爲替清算制ハ大國ガ小國ニ對シテ有スル凍結債權ヲ回收シテ爲  
ニ創設セラレタモノノ如クデアアルガ略々其ノ目的ヲ達スルト共ニ更  
ニ強國ノ輸出増進乃至維持ノ役割ヲモ果シテタカ。

歐米ニ於ケル戦後ノ決濟制度

委員 中 谷 實

一、戦後ノ決濟制度ト歐米ノ國家群

(一) 戦後ノ決濟制度ハ戦争ノ終結狀態如何ニ依存スル。

(二) 恐ラク戦後ノ決濟ハ次ノ如キ國家群間ヲ主トスルデアラウ。

(イ) 歐洲廣域圈

(ロ) 米英兩國ヲ中心トスル廣域圈

(ハ) 蘇聯邦

二、戦後決濟ノ主タル對象

(一) 賠償金 今次大戦ノ結果ハ恐ラク賠償金ヲ課シ得ナイデアラウ。

(二) 戦債 今次ノ戦債ハ私的債務少ク戦後ノ政治的解決ニ委ネラレルモノガ多イ。従ツテ戦債問題ハ決濟制度ニ重大ナ影響ヲ及ボサナイデアラウ。

(三) 支拂差額

(イ) 物資交易 休戦直後ヲ除ケバ各國ノ貿易量ハ次第ニ増大ス

ベシ。

(ロ) 國際投資 歐洲其ノ他ノ國ハ再建ノ爲ニ他國ヨリノ援助ヲ要  
望スベク他方米國ノ如キハ豊富ナル保有金ヲ以テ容易ニ多額  
ノ投資ヲ行ヒ國際投資ハ愈々旺ンニナルデアラウ。

三 戰後ノ決濟手段トシテノ金

戰後ノ決濟手段トシテハ金、物資、勞務等ガ用ヒラレルデアラウ  
ガ結局金ヲ再登場セシメルカ否カガ重要ナ問題デアル。

(一) 金排斥ノ論據

- (イ) 所謂金本位ノ自動的調節作用ニハ幾多ノ摩擦アリ。
  - (ロ) 米國ヘノ金偏在ハ金本位復歸ニ對スル根本的障害ヲ爲ス。
  - (ハ) 英國ノ國際的統制主義論者ノ構想スル如キ歐洲聯盟又ハ獨逸  
ノ理想トセル歐洲廣域圈ニ於テハ金ニ依ル決濟ヲ必要トセズ
- (二) 金採用ノ論據
- (イ) 國際的金本位体制ノ崩壞後モ英國ノ爲替平衡資金等ニ於テ金  
ハ重要ナ役割ヲ果シテ居タ。



四、爲替比率及決済處理ノ問題

戦後ノ決済ハ主トシテ爲替清算制又ハバーター制ノ下ニ行ハレル  
デアラウガ尙爲替比率ノ決定ト決済處理ノ問題ガ起ル。  
(一) 爲替比率ノ問題

(1) 爲替比率ニ關シテ指導的又ハ協調的統制ノ無イ場合

(1) 決済手段トシテ金ヲ用ヒナイ場合 戦後復員問題ノ中心ヲ  
ナス完全備蓄ヲ追求スル爲ニインフン政策ヲ採用スルトセ  
バ支拂勘定ノ系體ガ許サレナイ限り爲替比率ハ惡化シ完全

(ロ) 相當額ノ金ヲ保有スル中立諸國、兩河其ノ他ノ産金國及米國  
ハ金採用ヲ希望スル。

(ハ) 獨逸モ亦中立國ニ對スル交易尻ノ決済ニハ金ヲ用ヒルコトニ  
ナツテ居ル。

(ニ) 國際通貨基金案デハ金ハ通貨價值ノ基準タルト共ニ無制限ノ  
決済手段トセラレテ居ル。

要スルニ決済手段トシテ金ノ演ズル役割ハ相當大ナルモノト考ヘ  
ラレル。

雇傭ト爲替比率トノ矛盾ヲ生ズル。

(2) 決済手段トシテ金ヲ用フル場合 平素維持ノ爲ニ生産諸要素ノ報酬率ノ低下又ハ失業ノ増加トナリ完全雇傭ト爲替比率トノ矛盾ニ陥ル。

(ロ) 爲替比率ニ關シ指導的又ハ協調的統制ノアル場合 ニノミ一應ノ解決ニ到達スル。但シ完全雇傭及爲替比率ノ安定ト對外收支ノ均衡トノ間ニ決済處理ノ問題ヲ生ズル。

(二) 決済處理ノ問題 爲替比率ノ安定ニ對スル支障ハ決済ノ方策ニ依テ補整サレホバハラヌ。従ツテ

(イ) 戦價ノ政治的解決及再建ノ爲ノ國際投資ニ當ツテ自國本位ノ立場ヲ離レルコト

(ロ) 國際通貨基金案ニ於ケル制當條ヲ是正スルコト

(ハ) 收支ノ均衡モ即時的均衡主義ヨリ彈力的均衡主義ニ改メラルト

等ガ要請セラレル。

五  
結

詞

戰後ノ決済制度ハ各國ガ眞ニ共存共榮ノ基礎ニ立チ世界經濟ノ再  
建ノ爲ニ相協力スルトキニ於テノ眞ノ成業カ擧ゲラレルデアラウ。

國際通貨基金案ノ検討

委員 荒木光太郎

一、本案ノ性格

鑒ニ發表サレタ米國本位ト案ト英國ケーンズ案ノ折衷案デ、外形的ニハ米國案ニ類スルガ内容的ニハケーンズ案ニ通ズルモノガアル。

二、理論的分析

(一) 本案ハ形式的法規的ニハ金本位デアルトモ言ヘルガ實質的機能のニハ金本位ノ作用ヲ有シテ居ナイ。

(二) 通貨ト金トノ交流ハ一方的デ金ヲ提供シテ加盟國通貨ヲ取得シ得ルガ自國通貨ニ依ル金ノ取得ハ基金ノ發意ニ基イテノミ爲サレル。

(三) 基金ヘノ加盟ヤ加盟國ノ差金利用ガ任意デアル爲爲定ニ依ル加盟國通貨ノ平價ノ維持ハ困難トナル。

三、運營上ノ問題

(一) 加盟國通貨ノ平價維持ガ困難トナルカラ其ノ改訂等ノ問題ヲ生

四 結 論

- ズルガ、票決權ノ制當が出資ニ關係スル爲此ノ問題ノ解決ニ就  
 イテハ大國ノ壓迫ガ不可避トナル。
- (二) 基金ヘノ加入及加盟國ノ基金利用ガ任意デアアル爲、本基金ハ結  
 局不足通貨ノ必要ナ場合ニノミ利用サレルコトトナリ其ノ制當  
 等デ常ニ苦境ニ立ツコトトナル。
- (三) 基金ノ管理ニ當ル常務委員會ノ構成、票決權ノ配分其ノ他カラ  
 觀テ其ノ運営ニ際シ大國ノ小國ニ對スル壓力強ク、大國ノ利益  
 ノ爲ニスル現状維持ノ方便ニ役立ツモノデアアル。
- (一) 本案ハ加盟國ノ通貨ノ自主權ニ對スル拘束デアアル。從テ加盟國  
 モ何等カノ利益ノ打算ガナイ限り眞ニ協力シ結合シナイデアラ  
 ウ。
- (二) 更ニ米國ノ死藏金ノ用途ヲ開拓スル方便トモ考ヘラレ、又大國  
 ノ現勢維持ノ合理性ヲ裝フ手段トモ解セラレレ。
- (三) 從ツテ本案ノ實行ニハ多クノ困難ヲ伴フデアラウ。

國際通貨基金制度，要旨及批判

（調查月報第三十四卷特別第二號參照）

委員 青山 秀夫

戰後國債通貨案，批判

（調查月報第三十四卷特別第二號參照）

委員 鬼頭仁三郎

航空機工業ノ復員ト國際航空機工業

委員 今野源八郎

一、航空機工業ノ復員ト戰後國際航空機工業

(一) 航空機工業ハ造船及兵器工業ト共ニ交戰國ニ於ケル重要ナ軍需工業デアアルカラ戰時經濟ヨリ平時經濟ヘ圓滑ニ移行スルカ否カハ航空機工業復員ノ如何ニ係ルトコロガ多イ。

(二) 航空機工業ノ復員ハ

(イ) 軍用機生産ノ民用機生産ヘノ復員

(ロ) 航空機工業ノ自動車及車輛工業ヘノ復員

(ハ) 戰後軍用機ノ潜在的生産力ノ經濟的維持

ヲ主ナ内容トスルガ各列強共國防上ノ要請カラ航空機生産力ノ可及的ナ殘存ヲ計ルデアラウ。

(三) 併シ各國ガ航空機ノ現有生産力ヲ戰後モ維持スルコトハ其ノ世界市場ノ比較的狹隘ナ事情カラ觀テ困難デアアル。從テ航空機市場ノ開拓特ニ國際航空網ノ伸張ハ各國ニトリ航空機工業ノ復員上重要デアアル。

世界經濟ノ支配ト國際航空輸送

- (一) 世界經濟支配ガ最モ進歩セル交通機關ヲ最モ多ク所有又ハ支配スルコトニ依ツテ差セラレルコトハ事實ノ示ストコロデアアル。
  - (二) 航空輸送ノ長所タル高速度性、遠距離性等ガ益々増大サレ非安全性、非低廉等ノ短所ガ相繼イデ克服サレツツアルコトヲ顧ミ戰後ニ於ケル此ノ如キ交通機關ハ航空機デアルトイフコトガ出來ル。
  - (三) 從ツテ航空機ハ帝國ニ現代戰ノ歸趨ヲ決スル重要ナ武器デアアルノミデナク、平時ニ於テモ世界經濟ノ霸權ヲ掌握スル不可缺ノ手段デアリ、戰後國際航空輸送ハ各國ニトリ此ノ點カラモ重要ナ意義ヲ有スル
- 三、國際航空輸送戰ト反樞軸國國際航空會議
- (一) 國際航空輸送ガ列強ニトリ此ノ如キ重要性ヲ持ツ以上戰後ニ國際航空輸送戰ガ生ズルノハ蓋シ必然デアアル。
  - (二) 反樞軸國國際航空會議ハ斯ル國際航空輸送戰ノ序幕トシテ注目ニ値スル。即チ日本及獨逸ノ航空勢力ヲ世界航空ヨリ抹殺シ、



(三) 反樞軸國間ニ世界航空ヲ分割スルコトニ就イテ討議シタ。

米國ハ自國航空機ノ優秀、輸送費ノ低廉、ヨリ良キ奉仕ヲ武器トシテ自由競争ノ原則ニ立チ世界ニ航空網ヲ擴大セントシテ「空ノ自由」主義ヲ採ツタ。之ニ反シ英國及其ノ與國竝ニ二流國ハ米國ノ優レタ競争力ニ對シ自國ノ航空網ヲ防衛セントスル保護的統制主義ヲ主張シタ。

(四) 此ノ如ク世界航空ノ分割ニ就イテ米英間ニ主張ノ對立ガアツタノミナラズ蘇聯ノ不参加モアツタ爲反樞軸國國際航空會議ハ所期ノ成果ヲ見ズニ終ツタ。之ハ米、英及蘇聯ガ自己ノ世界航空輸送計畫ニ就イテ互ニ讓歩ヲ得ザル程ノ關心ヲ持ツコトヲ示シ專斷ノ深刻ナコトヲ端的ニ物語ルモノデアアル。

第二部 結論

主要交戦國ノ財政政策殊ニ租稅政策

委員 汐見三郎

一、國內ノ戰費財源トシテ租稅ガ重視サレ、外國資金ニ依ル戰費財源トシテハ樞軸側ノ占領地分擔命ト反樞軸側ノ武器貸與ガ重要ト役割ヲ果シテオル。

二、巨額ノ租稅收入ヲ期待スル爲、公正ナル租稅負擔、精緻ナル課稅組織ヨリモ租稅收入ノ急遽ナル増加ニ努ム。

(一) 國稅ヲ主トシ地方稅ヲ從トス。收得稅、消費稅及流通稅ノ汎ユル稅種ヲ整備シテ收得稅ニ所得稅ニ收入ノ大部分ヲ仰グ。  
(二) 國民經濟ノ一環トシテ租稅政策ヲ樹立ス。

財政金融ヨリ見タル獨逸ノ戰力

委員 中山伊知郎

一、戰費ノ大サ、其ノ調達方法、インフレ防止ノ效果等ヨリ見テ獨逸

ノ經濟戰力ハ略々極限ヲ示シテキル。之ニ耐ヘ得々ノハ獨逸ノ意識的ナ戰爭努力デアリ、此ノ效果ノ續ク限り獨逸ノ經濟的崩壞ハ考ヘラレナイ。

米國ノ戰費調達ト通貨政策

委員 高橋泰藏

- 一、一九四三年末迄ニ於ケル米國ノ戰費調達ハ増稅及國民貯蓄ノ方法ニ依ラズ主トシテ金融機關ノ過剩準備ヲ基礎トシテ創出セラレタ
- 資命ニ依ル國債ノ引受即チインフレノ方法デアレタ。
- 二、然ルニ最近此ノ過剩準備ハ激減シ斯ル方法ニ依ル戰費ノ調達ハ既ニ限界ニ達シツツアル。今後ハ聯邦準備銀行ノ直接引受カ又ハ一般公募ノ方法ニ重點ガ移サレルコトナラウ。

金を要セザル經濟ノ構想

委員 荒木光太郎

- 一、獨逸フンク經濟相ハ國際通貨基金案ニ對シテ廣域經濟ヲ前提トスル金を要セザル經濟ノ構想ヲ披瀝シタガ之ハ理論的ニ可能デアル。
- 二、金を要セザル經濟ハ國內貨幣ト金、經濟圈內貨幣ト金及國外支拂ト金ノ三點ヨリ檢討ヲ加ヘル必要ガアル。
- (一) 國內貨幣ガ金を必要トシナイコトハ從來ノ事實カラ明デアリ
- (二) 經濟圈內貨幣トシテ金ノ不必要ハ經濟協同體デアアル廣域經濟圈ノ目的ト性質カラ當然導キ出サレ
- (三) 又國外支拂ニ付イテ戰後ノ世界經濟ノ國防經濟圈の構成ヨリ金支拂ノ必要ガ可能トナル。
- 三、尙金を要セザル經濟ハ金ト關係ヲ有スル制度ニ復帰スルコトガ米國ノ金ニ依ル支配ニ服スルコトトナルカラ我國ニトリ實際的ニモ重大ナ意義ヲ有スル。

國際決濟制トシテノ爲替清算制

委員 油本 豊吉

一、爲替清算制ハ技術ト若干ノ問題モアルガ新シキ國際決濟方法トシ

テ理論的ニモ實際的ニモ優レタルモノデアアル。

二、爲替清算制ハ金本位制ト矛盾スルモノデハナイ。

今後國際間ニ於ケル協調ノ進展ト共ニ多角的清算へ發展スル傾向  
ガアル。

歐米ニ於ケル戰後ノ決濟制度

委員 中 谷 實

一、賠償金及戰債問題ハ前大戰ノ例ニ鑑ミ戰後決濟制度ノ障礙トナラ  
ザル様ニ考慮サレテ居ル。從ツテ戰後決濟ノ對象ハ主トシテ貿易  
及國際投資ノ支拂差額デアアル。

二、多角的清算制又ハバーター制ニ依リ金偏在ノ困難ハ余程緩和セラ  
レ支ヲ替ヘタ金ガ再ビ決濟手段トシテ登場スルデアラウ。

三、戰後復員ノ爲ノ完全雇傭、爲替比率ノ安定及對外收支ノ均衡トノ

間ニ交渉ノ問題ガ生ズルデアラウ。之ガ解決ニハ眞ノ國際協力ガ  
必要デアアル。

國際通貨基金案ノ檢討

委員 荒木光太郎

- 一 本案ハ加盟國ノ通貨ノ自主權ニ對スル拘束デアリ、加盟國モ何等  
カ利益ノ打算ガナイ限り眞ニ協力シ結合シナイデアラウ。
- 二 更ニ米國ノ死藏金ノ用途ヲ開拓スル方便トモ考ヘラレ、又大國ノ  
現勢維持ノ合理性ヲ裝フ手段トモ解セラレル。
- 三 從テ本案ノ實行ニハ多クノ困難ヲ伴フデアラウ。

國際通貨基金制度ノ要旨及批判

委員 青山 秀夫

- 一 本案ハ米英ヲ中心トスル反樞軸國本位ノモノニシテ樞軸國ノ經濟  
的發展ヲ抑制セントスル意圖ヲ存シ著シク謀略的ナリ。
- 二 本案ハ基金運営ニ關スル規定ヲ完備セズ且通商政策ヲ顧慮スルコ  
ト不十分ナルヲ以テ實際的ニモ理論的ニモ價值少シ。

戰後國際通貨案ノ批判

委員 鬼頭仁三郎

一、本案ハ米英兩國ノ妥協ノ所産ニシテ且其ノ内容ガ確定的ナラザル  
爲米國ノ世界統一主義ヲ實現スル爲ノ手段トモナレバ或ハ場合ニ  
依テハ英國ノ對米分立主義ノ武器ニモ供セラル。

二、本案ニ依レバ基金ノ管理ガ米英何レノ手ニ握ラレルニモ其ノ他  
ノ加盟國ノ經濟ノ自主的發展性ハ否定セラレ原則トシテ從屬的關  
係ニ置カルルコトトナルベシ。

航空機工業ノ復員ト國際航空輸送戰

委員 今野源八郎

一、戰後ノ國際航空輸送ハ航空機工業復員ノ壁カラ又世界經濟支配ノ  
點カラ各國ニトリ極メテ重要ナ問題デアルカラ戰後ニ國際航空輸  
送戰ガ惹起サレルコトハ蓋シ必然デアル。曩ニ開港サレタ反樞軸  
國國際航空會議ハ此ノ序幕ト觀ラレル。

二、同會議ハ蘇聯ノ不参加ニ加ヘ「空ノ自由一主義ニ立ツ米國ト「空

ノ統制ニ主權ニ立ツ英國等トノ主張ノ對立モアツテ所期ノ成果ヲ  
見ナカッタガ之ハ米、英及露國ガ自己ノ世界ニ空想計畫ニ就イ  
テ互ニ讓歩シ得ザル程ノ關心ヲ持ツコトヲ示シ專断ノ深刻ナコト  
ヲ端的ニ物語ルモノデアル。





昭和二十年七月

昭和十九年度共榮團財政金融調查協議會報告（要旨及結論）

大藏省  
外資局



目次

支那經濟ノ特質	委員	橋本	秀一	(要旨)	一頁	(結論)	三八頁
支那ノ物價騰貴ト其ノ對策		谷口	吉彦		六		三九
物價騰貴ノ支那經濟ニ及ボセル影響		橋本	秀一		一〇		四〇
支那人ノ貨幣觀		小島昌太郎			一六		四一
支那貨幣ノ性格ト銀行券發行ノ問題		山口	茂		一九		四一
支那ニ於ケル紙幣發行制度		德永	清行		二三		四二
支那農村ノ貨幣經濟化		小島昌太郎			二九		四三
支那土着工業ノ生産力ニ就イテ		山田	雄三		三一		四三
支那特ニ北支ニ於ケル食糧及衣料ノ流通過程		村松	祐次		三四		四四

第一部 要旨

支那經濟ノ特質

委員 橋本 秀一

一 一般的性質

(一) 支那ノ經濟ハ古來停滯的ナリ政治的變動トノ關係ハ薄イ。

(二) 其ノ特色トシテハ家族制度等ノ社會的特質ヤ民族ノ傳統ニ由來スル多クノ封建的ナ要素ガ基ゲラレ、原始産業ノ優位、蓄積資本ノ貧困、生産力ノ低位、流通經濟ノ未發達、地方割據的經濟等ノ諸事情ハ其ノ現レデアル。

(三) 右傳統的要素ノ外阿片戰爭以後入り來ツタ外來的ナ要素モ混在シ二重經濟ガ形成サレテ居ル。

二 農業ノ特質

(一) 農業ハ古代ヨリ支那ノ主要産業デ今モ尙人口ノ八割ハ農民デア

ル。  
(二) 自作農中心ノ小農圃ヲ採リ一戸當リノ耕地面積ハ九反程度デアリ、農家總戸數ノ七割ガ自作農及目小作農デア

(三) 技術ハ保守的傳統的デ科學技術ノ導入ナク専ラ人力ニ依ル集約栽培ガ行ハレテ居ル。

(四) 生産力ハ集約栽培デアルニモ拘ラズ極メテ低イ。

(五) 大多數ノ農民ハ收入少ク販賣ヤ金融上ノ條件モ苛酷デ租稅ヤ地代モ高率ナル爲窮乏ノ生活ヲ送ツテ居ル。

### 三 工業ノ特質

(一) 今尙手工業ガ代表的デ勞力ハ専ラ家族ヤ徒弟ニ求メラレ生産ハ斯ル勞力ト簡單ナ器具ニ依ツテ行ヘレ經營モ家計ト分離シテ居ナイ。

(二) 各業者ハ業種別ニ主トシテ地縁的ナギルドヲ組織シ價格、品質及勞働時間ノ統制、紛争ノ調停、官憲トノ交渉等ニ當リ時ニハ地方ノ政治ニ干與スルコトモアル。

(三) 手工業品ハ工業生産額ノ約三分ノ二ト工業品流通額ノ約五分ノ二ヲ占メテ居ルヤウデアル。

(四) 外國勢力ノ侵入以來工場モ相當發達シタ。之ニハ外國資本ニ依ルモノト民族資本ニ依ルモノトアルガ前者ガ壓倒的デアル。

四 流通經濟ノ特質

(一) 物資

(イ) 外國系工場ハ大工場ヤ重工業ヲ主トシ高厚ノ獨占ヲ示シテ居ル。

(ロ) 支那系工場ハ小工場多ク設備モ劣ルガ新興ノ氣運ヲ孕ンデ居

リ、消費材ノ生産ニ於テ重要ナル地位ヲ占メテ居ル。

(三) 此等ノ各工場ハ上海其ノ他沿海都市ニ偏在シテ支那經濟ノ二重性格ヲ現ハシテ居ル。

(二) 物資

(イ) 支那デハ全國的ナ物資ノ流通ハ未ダ例外的デ、原則トシテ一

地方都市ヲ中心トシ往復一日行程以内ニ在ル部落ヲ以テ一流通圏ガ構成サレテ居ル。之ハ大規模生産ヤ新式交通機關ノ普

及シテ居ナイコトニ基因スル。

(ロ) 從テ流通機構ハ一般ニ合理化サレテ居ラズ、地方都市デハ商業資本ガ猛威ヲ振ヒ、集荷及配給過程ノ中間段階ハ多數ニシテ複雑デアル。定期市ニ依ル取引ヤ副業的ナ行商モ高い地位ヲ占メテキル。

(一) 取引ハ非合理的ナ要素多ク投機トノ限界ハ不明瞭デアリ其ノ慣習等ハ地方的特異性ニ富ンデ居ル。

(二) 通貨

(イ) 通貨ハ未ダ亂雜不合理デアリ幣制ノ全國的統一ハ完成シテ居ナイ。取引ヲ支拂ニ物々交換、物納、現物拂等ノ占メル割合高ク、通貨ヲ價值ノ貯藏手段ヤ尺度トシテ認メル程度ハ低イ。  
(ロ) 右ノ事情ヲ反映シ大規模ノ新式金融機關ハ發達セズ、小規模ノ錢莊ガ一般的ナ金融機關デアル。

(三) 交通運輸

鐵道、自動車、汽船等ノ近代の機關ハ未發達デアリ舊來ノ擔送手押車、荷車、牛馬駱駝、民船等ガ壓倒的地位ヲ占メテ居ル。

四 對外經濟ノ特質

(一) 外國貿易ハ原料輸出ト製品輸入ヲ特色トスルガ流通經濟未發達ノ爲外國貿易ニ依存スルコト尠ク消費財ハ高度ノ自給率ヲ示シテ居ル。

(二) 外國資本ノ侵入ハ巨額ニ達シ鐵道、鑛業、生産財工業、貿易、

金融等デ優位ヲ示シテ居ル。

(三) 支那經濟ヘノ外國勢力ノ侵入ハ支那經濟ニ對シ初期ニ於テハ破壞的ナ、後期ニ於テハ建設的ナ影響ヲ與ヘ、又買辦制度ノ如キ兩者融和ノ形態ヲモ發生セシメタ。

(四) 農業ニ對スル影響ハ比較的薄イガ農村ノ商品生産ヲ漸次發達セシメ舊來ノ自給經濟ヲ次第ニ崩壞セシメツツアル。

(五) 工業ヘ外國品ヤ外國資本ノ侵入ニ因ツテ大ナル變化ヲ受ケ、外資ト結合スル支那系工業ガ前大戰以來發展シ新式金融機關ノ發達ト相俟ツテ支那國民革命成立ノ機軸トナツタ。

(六) 手工業ヤ家内工業ハ次第ニ其ノ地位ヲ弱化シツツアルガ織維産業等ニ依然強固ナ地位ヲ占メ舊時以上ニ發展シ々面モ少カラズ工業化スル可能性モアル。

支那ノ物價騰貴ト其ノ對策

秀星 谷口 吉彦

一、物價騰貴ノ現状 支那ノ物價ハ支那事變前ニ比シ中支ニ於テ約百倍、北支ニ於テ約十倍ノ騰貴ヲ示シテ居ル。

二、物價騰貴ノ原因

(一) 物資側ノ原因 農工生産力ノ低下、輸入ノ減退、物資交流ノ滯留等アルモ物資ノ投機的買占ガ最大ノ原因デアル。

(二) 通貨側ノ原因

(1) 通貨ノ増發 大作戰ノ進展ニ伴ヒ多額ノ儲備券ノ増發ヲ必要トシタ。

(2) 金融統制ノ不徹底 當局及儲備銀行ノ金融統制力弱キ爲 金融機關ノ投機資金ノ放出、不良金融機關ノ横行、派割制度ノ濫用等ヲ招來シ投機國積ヲ助長シタ。

(3) 預金ノ流動化 支那事變前ニハ長期定期短期六割ノモノガ大東亞戰爭後ハ長期一割短期九割トナリ浮動資金ヲ増加シタ。



(1) 上海遊資ノ投機的活動 數十億ノ浮動資金ハ投機資本占ニ狂奔  
シインフレヲ激化シテキル。

(2) 舊法幣價值ノ下落 舊法幣物價騰貴ノ影響ヲ受ケテ新法幣物  
價ノ騰貴ヲ來シタ。

(3) 通貨信認ノ不足 永年ノ通貨不安ニ因リ支那人ノ紙幣ニ對ス  
ル信認ハ極メテ薄弱ナルニ加ヘ新通貨タル儲備券ニ統一サル  
ベキ諸種ノ事情ガアツタ。

(四) 其ノ他ノ原因

(1) 支那人ノ國民性 利己的、物價的投機的ナ國民性ガインフレ  
進展ノ基礎ヲナシタ。

(2) 政治力ノ不足 政治力ノ滲透不十分ニシテ投機ノ取締、統制  
ノ強化等ヲ阻碍シテ居ル。

(3) 反樞軸ノ謀略宣傳 反樞軸特ニ宣傳、歪曲宣傳ヲ反映シテ  
事アル毎ニ物價ヲ高騰セシメツツアリ。

三、物價騰貴ノ影響

(一) 支那ニ對スル影響 經濟的ニハ豫算ノ實行困難、財政ノ膨脹、

生産ノ阻害、國民生活ノ窮迫等ノ影響及ボス。併シ新ル民生ノ窮迫ニモ拘ラス困難ナル政治的社會的ナ問題ヲ惹起スルコト、比較的少イ様デアル。

(二) 日本ニ對スル影響 支那ノインフレガ直接日本ニ波及スル懼ハナイガ現地軍費ノ膨脹、戦力物資ノ獲得困難、爲替交易調整上ノ負擔増大、在留邦人ノ窮迫等ヲ免レナイ。

(三) 滿洲ニ對スル影響 北支資源ノ利用困難、物資ノ北支流入等ノ影響ヲ及ボス。

(四) 共榮圈ニ對スル影響 物資交流、資本交流及爲替決済ニ支障ヲ來タス。

#### 四 物價騰貴ノ對策

(一) 物資側ノ對策 物資集配機構ノ整備改善、收購價格ノ適正化、重要物資ノ登錄制及規制實施、消費規正等ガアル。

#### (二) 通貨側ノ對策

(イ) 通貨増發及投機資金ノ抑制當局ノ消費的支出、不急不要事業へノ貸出、投機資金ノ融通等ハ之ヲ抑制シ且現金通貨ヨリ信